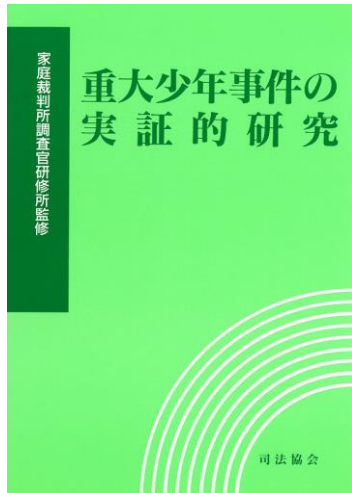


重大少年事件の実証的研究



監修	:	家庭裁判所調査官研修所
定価	:	本体 952 円 + 税
判型	:	A5 判
ページ数	:	98 ページ(本文 83 ページ)
ISBN	:	書店扱いあり
発行	:	平成 13 年 5 月

内容

平成10年前後に、単独、集団で通行人を襲った事例等重大な問題となった少年事件について、家庭裁判所調査官である研究員を中心とした裁判官、学識経験者、教員、関係機関の実務家等がチームを組み、専門的見地から分析、研究を行ったものです。少年事件に関する家庭裁判所調査官等の実務研究図書としては、初めて司法協会から発行したものです。

目次(抄)

はじめに	(3) 自分の気持ちすら分からない感覚	(1) 共通して見られる特徴
第1章 単独で重大事件を犯した少年たち	(4) 自己イメージの悪さ	(2) 典型的事例に見られる特徴
1 三つのタイプ	(5) 歪(ゆが)んだ男性性へのあこがれ	3 なぜ歯止めがきかないのか
(1) 典型的事例と理解の枠組み	第2章 集団で重大事件を犯した少年たち	第3章 前駆的な行動への対応
(2) 家族関係の特徴	1 所属していた集団の特徴	1 なぜ周囲は前駆的な行動に気付かなかったのか
(3) 交友関係等の特徴	(1) 多人数の集団	2 前駆的な行動にどう対応すればよかったのか
(4) 犯行態様の特徴	(2) 二人共犯関係	おわりに
2 共通して見られる特徴	(3) 集団を取り巻く環境	
(1) 追い詰められた心理	2 集団暴力の特徴	
(2) 現実的問題解決能力の乏しさ		

関連書籍

図書 No.129 [重大少年事件の実証的研究—親や家族を殺害した事例の分析を通して—](#)